2

アタゴオル玉手箱

ますむら ひろし

KAISEI-SHA

アタゴオル玉手箱 2 ますむら ひろし

偕成社

カバー・表紙デザイン
たむら しげる

なぞの犬

なあ
犬って
なんだい？
犬かい？
犬はかたくて
重たいよ
どのくらい
かたい？
そうだな
かじったら
歯がおれるぞ
オレの
歯でも
だめかな？
だめだな
犬って奴は
いつもだまって
じーっと
してるのよ
いったい
どんな顔
してるんだい？
なんだ
まだ犬を
見たこと
ないのか？
うん
たしか
この近くに
いるはずだぞ
ホラこれが
犬だよ
あら!!
なんだ
これは
馬だよ
馬!!
これ
馬だったのか
フーム
犬って
なんだろう？

——水くみ——

おい、カツラ
のどがかわいたぞ
泉の水をくんでこい
おう!!
親分

あれ
このツボ
穴があいてるぞ
オレが
あけたんだよ

うーっ
のどがカラカラだ
水はまだかなあ
フウ
フウ

おま
たせーっ
チャプ
チャプ

H. Masumura

ATAGOUL

●玉手箱メニュー

冬の散歩道

うーむー

先生
あったまってください
おお
ありがとう

コク
コク

「王女の銀の袋は
冬のはじまり」

ヒデ丸
も一度読んでくれんか
あのナスナ文字を
はい

くっ

湧いてきたぞ
ナノの意味が
湧いてくる
コプコプコプ

うむ
先生
できましたか

できたぞ
王女の銀の袋というのはな
古い昔
ナスナ時代の王女様か
ほっかむりをしていたのだ

ほっかむりー

そう、こんな風に
銀色のほっかむりを
していたんじゃ

なんだか
変ですね
いーや、
変ではないのよ
冬のはじまりは
寒いだろう

ええ
寒いです
だから王女様は
ほっかむりをして
頭を暖めていたんじゃ

どうだね
この説を
アタゴオル考古学会に
持っていけば賞品は
ずえんぶわしのものじゃよ
そういえば毎年
今頃になるとふたりで
ここに来てナゾ解きしてるな

オーイ
ヒデヨシー
何やってんのー
わっ あれは
テンプラ少年
ではないかな

やあ ヒデ丸も
いっしょかい
スミレ博士ごっこを
やっているんです
わしは
ごっこでは
ないのよ

季節の風物詩ですね
テンプラくん
わしはついに
王女の銀の袋の意味を
解き明したんじゃよ

王女は銀の
腹巻きをしていたとか
そんなんだろう

いや、ほっかむりだよ
あら
オレ いそいでるからね

どこへ いくんだい
カラシ林のブドウ酒屋に ハーモニカ吹きに行くんだよ

ブドウ酒屋い ハーモニカ吹き?

手紙を もらったんだ

「アタゴオルの森一番の ハーモニカ吹き、すすき野テンプラ様 ぜひ、我が家で、その腕前を お聞かせ下さい」
「お礼は水晶グラス付きの ワイン16本でえす」

いいなあ オレ好きなんだ、あすこのブドウ酒
ヒデヨシにも 分けてあげるよ

イエ/ ありがとさん
ところで テンプラくんい 聞きたいんだけど
何?

さっきの「王女の銀の袋は冬のはじまり」という文字、何を意味してるものだと 思いますか
あれねえ
ハンノなんかと 昔からいろいろ 考えては来たんだけど

王女の何か 儀式のような 気はするんだけどね

儀式、
そう
冬のはじまりのある日
王女が、銀の袋で何か
儀式をやった というような
意味に思うんだけれど

なにせ 銀の袋という
言葉だけでは、いくら
想像しても手がかりが
少なくてね、

銀の袋か
でも
ナスナ時代の
残してくれた遺跡は
今の時代の連中に
ナゾを解く楽しみを
残してくれたようなもんだから

気長にやれば
いつの日か
あの言葉の意味を
解ける日が来るさ
そうですね

ども
こんにちは
やあみなさん、
お待ちしておりました

んめ

ごぞんじの通り、
私の店は、代々
ブドウ酒作りを
してるので
地下の倉庫は
迷路のようになっているんだが

0日程前、
倉庫をかたづけている時、
迷ってしまい、
古い奥の部屋の中で
おかしな石板を
見つけたんだよ

おかしな石板
ああー
それに何やら
譜面っしきものが
きざまれているんだよ

(注)トウミギ　アタゴオル方言で「とうもろこし」。子供か年よりが言う。ヒデヨシは毎年トウミギ畑を荒しまわるので農民は落し穴や眠り団子で対抗している

「銀の袋は
冬のはじまり」

「足どりも軽く」

銀の袋
冬のはじまり
そして足どりも軽く か
「足どりも軽く」
ああテンプラ わからない わからないのよーっ
どうやらこの板 あの石の遺跡と関係がありそうですね
オレも わからないよ
そうだね
ら
この音符 生きてるそーっ
え？
ツーーッ
新しい旋律に並び変わっていくみたいだぞ

新しい曲か
あらっ

煙の字が変わっていきますよっ

「石の台座の下で」
「石板に乗り吹きなさい」

台座台座ってなんだ？

たぶん
あの遺跡ですね

うん
どうやらこの石板であの言葉のナゾが解けるかもしれないぞ

ナゾとけるーナゾとけるー
店のおやじさんも来ればよかったのにね

あの方はワイン作りと音楽には関心があるんだけど考古学の方は興味がないんだって
オレはみーんなあるわよーっ

あら、雪が降ってきましたね
吹雪にならないといいな

ついたわよーっ

さあさあ
テンプラ吹いてみて
よし
やるぞ
おかしな
旋律たな
ムフッフッ
またこの石板から
煙が出るのかな
ふう
あらん
もう終ったのか
ああ
短かい曲たからな
変たなあ
煙も出ないし
テンプァーノ旋律
吹きまちがえたんじゃ
ないのーっ
そんなはず
ないけど
もう一回やって
みるか
あっ

オレが吹いた
ハーモニカだ

シュッ

あ

キャ
銀色の粉よっ

これは

あっ

銀の

たしかにこれは銀の靴だけど
なんでそれが「冬のはじまり」なんだろう
フワッ
あ
なんだいまのは
ズッ
たしかこうして
ズッ
ふっ
「冬のはじまり」ってのは雪が降ることなんだ
あっ
!
降る雪を歩いてる
昔 王女様は
この銀の靴で

冬のはじまりに
降って来る雪を
歩いたんですね
うん

足どりも軽く

イエーッ
銀の靴
イエーッ

あっ

粉雪気分よ

これじゃどこへでも
行けますね
うん
行ける！

ほんとう！
粉雪は

冬の散歩道たね

春の腕

やっぱり迷ってしまったな
まいったなー

近道なんかするからだぞ

ひげジャンケンで勝った方について行く約束なんだからこうなったのすあ

しかし、アタコオルっていくら歩いても
知らない所があるんだなあ
森は深いからね

黄もち草でもはえてくると、方角がわかるんだけどな
安心おし どうせこの辺は風鈴森なんだから

なにか風鈴森だよ

おまえの方向音痴は年々、ひどくなるなあ

道に迷っても生きて行けるわよーっ
しょうかない、夜になるのを待とう

夜？
ああ、枝の間から星座が見えれば
方角が読めるから

うーっ テンプラくん おりこうさん
どもども
NADE NADE

あれ

あの すいません
道に迷ったのですが 蛇腹沼へいく道を 知りませんか

蛇腹沼

蛇腹沼を 知らないんですか
ええ

私 この森の外に 出たことないものですから

うめ

そうですか
ぐう〜

あなた方 よろしければ 私の家で何か 食べていって下さい
ども
ペコ

ところで さっきから いしきな 一オイが ただよって 来るのですが

ところでエリナさんは
この森から出たこと
ないそうですが
方角は
わかりますか?

どうも
ごちそうさま
気をつけて

西に何か
あるのかな？

どうしてだい？

さっき、エリトさんにこの方角を聞いた時
なんだかおどろいたような気がしたからさ
ここ あれ
また あの グミ樹とかいう実の ニオイかするな

すわう かしらん？
でも ここ 鯨森のどこかの はずだから西に向かうと 蛇腹沼に出るはずなんだ

れか？

あ おまえ
あんまり いいニオイなんで いただいて 来たのすあ

テンプラ
食う？

食わないよ 第一、それは 毒だぞ

けないいニオイの 実が毒なはず ないでよん
ガブ

もぐ もぐ
あ

まあまあの味だな
食った

腹痛くなっても知らないぞ
ブフフ…だいじょうぶよ

少し位の毒ならオレの体はうけつけないからな

ただ、ちょっと体がポカポカしてくるのさ
暖ったまってくるのか

うん
でも、これ食ったけどぜんぜんポカポカしないぞ

それじゃ
グミ樹の実って毒じゃないのか
!?

何言ってんだよ
すご

フフ…テンプラ
あの人ウソついたんだよ
ウソどうして

テンプラがあの実を食いたそう〜していたからさ

これを
見せたくなかったんだ

ぽかぽか
あっ
もうすぐ
春だねえ

あれ

どうか
したんですか
なんだか

胸の中で風が
吹くみたいだ

おかしなことが
おこりそう
だぞ

テンプラ
これが見えないの
くああーっ
なに言ってんだよ
おまえ

ヒデヨシに見えて
オレには見えないって
ことは

あっ そうか たぶん
それ グミ樹の実のせいだぞ
グミ樹の実のせい？
そうだよ さっき食ったあの実のせいで幻を見てるんだよ
ホッ毒じゃないんだからテンプラも食べなよん
パン
毒じゃないとするといったいどんな景色なんだ
ガリ
かっかっからいっ
口の中かぶれてくるみたいだぞっ
どう？ちょっと美味でしょっ
なんだこれは
おまえの舌はどうなってるんだ？
お

見たことのない文字たなあ
ナスナ文字ともちがう……
幻覚ではありません
あなたたちグミ樹の実を食へたのですね
テンプラなんだろうこれ？
あれ・さわると冷んやりするぞ
ピタ
どーも
おわびします
幻覚にしては変たなあ
うっ
まあいいでしょう
それは普通の状態では見えませんか
幻覚ではないのです
幻覚じゃない
そうです
てっ
てっかいテンプラ

あっ
なんだ これは
グミ樹の実を食べたために、心の奥にいるもうひとりの自分が出てきたのです
そういえばなんだか
胸の中が空っぽになったような
あの実はいったい
私の知るところでは
ナスナ時代よりも昔に 私の家あたりにあの実を植えた者が
これを造ったらしいということです
「腕」…?
代々、私の家では、あの実を料理して食べていたために
私には、実を食べなくても、この「腕」が見えるのです
ええ「時の腕」といいます
春には春の腕になり秋には秋の腕になるのです
ハルニハハルノウデ

そうです この時の腕は大きな時の流れに合わせて少しずつ傾いていき
正確な季節をしめしているのです

へえっ

昔の人はこの時の腕をながめてめぐって来る季節を感じていたのでしょうね

でもどうやってこれ動いてんのかなあ?

私のおじいさんがいろいろ調べたらしいのですが この岩の下には
たくさんの管のようなものが入っているらしいのです

管
それにしてもでっかいテンプフもオレもヨダレたらしてさっぱり起きてこないなー

心の奥の自分ですから眠っていて起きたりしないのです
一晩もすればぼんやり消えて行くだけです

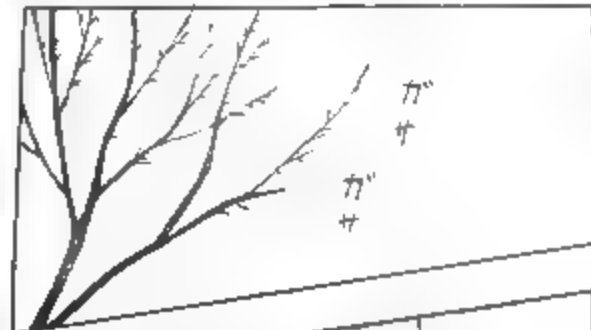
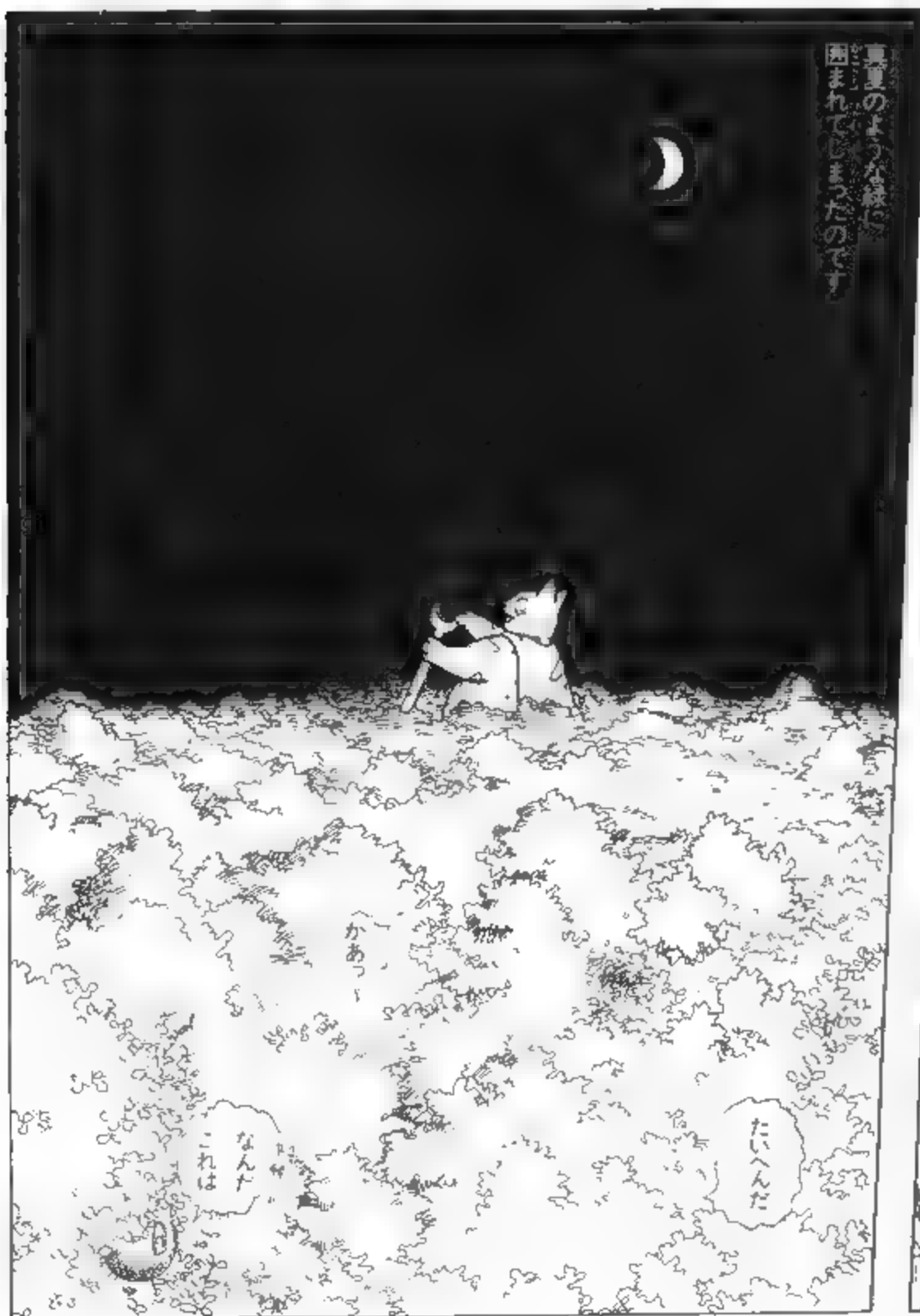
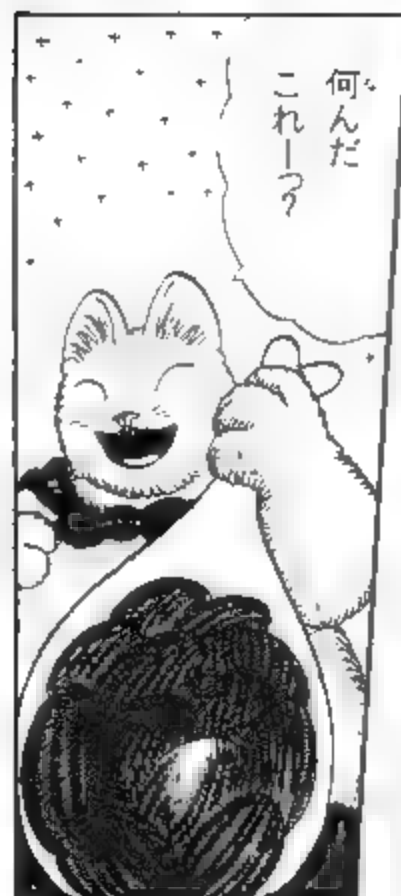
エリトさんはこの腕を見て春が来るのがわかるのですか

もちろん
もう4日たてば春ですね

その夜のこと

心の奥のヒデョンは

むっく

眠ってるふりをしていたのです
それから
ゆっくり
時の腕に
手をかけて
ガリ
ガリ
引っぱりました
ガサ
ガサ
そんなわけで
うっ
ガサ
ガサ
ボッ
シュル
その年のアタゴオルは
一夜にして
うあ
真夏のような緑に
囲まれてしまったのです
かあっ
たいへんだ
なんだ
これは

ムラサキホタル草

★印のついているところでヒデヨシか歌っているのは、ご存知ビートルズナンバーです。さて、何の曲でしょう　答えはP.144にあります

おっ
どうしたんだ
そんなに

いったいどこで
見つけて
来たんだい
うふふ
秘密よ秘密

1個 銅貨2枚だったんだよねーっ
よくもまあ!

そうだ

・おまえ
こんな植物
知ってるか
ん?

ウニウニ
生イカ
紅マグロッ

ムラサキ・ホタル草…
発見したものには
銀貨17枚か

17枚とは
はりこんだな

どうせどこかの
お金持ちの
植物集めだろーよ
フーン、
でもヒデヨシ君
こんなの見たこと
あるの?

実は
あるよ

ある!

見たこと
ないなあ
そう
ですか…

粉雪亭

ところで
お客さんは
相当な植物
収集家の
ようですね

いやワシは
天文学者なんだよ

そう…
ワシの住むドアンドフの
森には木耳族という
土人がいるんだが

天文学者

天体にくわしい
種族でね
そこに古くから
語り伝えられている植物が
宇宙と関係があると
言われているのだよ

植物か宇宙と…
ええ どうやら
宇宙的な植物
らしいのだ

宇宙的な植物

なんて強烈に
甘いニオイなんだ

ヒデコシ君、
平気なのか
オレこういうニオイ
好きなのすあっ

こんな所、まともな
生物は近づきたく
ないだろうな……
しかし、いったい
何んのニオイなんだろう

たしか
このあたり
だと 思っ
たんだが
あっ

おっ

ウニ
そうか…
この花の
ニオイなのか…

やったぞ
銀貨17枚
待って
どうしたん？
その花
おかしな気配が
するぞ
オレには
しないわよう
ダダッ
ら
かっかっ
かっかっ
体か
動かねえぞ
私が止めたのだ
どうやら
この植物には
近づかない方が
よさそうだぞ
近づかなきゃ
銀貨がもらえ
ないのよーっ

ウニがオレを待ってるのよーっ
ダッ
うははは
ホゥホゥ
別にさわっても平気だぞう
あっ
想念が破れたー
ではさっそく
うりゃ
ザボ
やったぜ、姫よ
おそろしい食欲だなあ

あれ　花のニオイが
消えてきたぞ
ひっこぬいたから
花の奴め
のびちまったのさ

おかしな気配も
なくなっている…

ヒデヨシが
ホタル草を
見つけたぞ
えっ
ホントですか

かんら
かんら

あいつなら
探し出すかも
しれないいな

なにしろ
あぶない所でも
平気で入って
いくからなあ
しかし
いったい
どんな植物
なんでしょうね

フーム・・・
ふしぎな植物だ
かすかに甘い
ニオイがするな
ヒデヨシ君が
これをぬくまでは
すごいニオイ
だったのだよ
植物というより
……鉱物に
近いようだ……
鉱物に近い・・・
そういえば
花びらはなんだか
水晶でできてるみたい
だしな・・
かたいよ・・
この茎・・・
まるで
茶々石だ
しかしこんな重いものを
よく引っこぬいて持ってきたな
朝めし
パクパクさっ

あれ この花には 花粉がないなあ
たしかに そうだね

どうやって今まで 繁植してきたのかな・
ウーム・・

植物でありながら 鉱物とまじりあって成長して きた…かなり古代からの 種のようだが・
くわしく調べてみないと わからないな・

いやあホントに ありがとう
なんの なんの

あしとおみ わっしせいえっ

でも・上人は あの花をどうして 宇宙的って 言っていたんだろうな
ん？
あんじゅのおざっ きゃんびいばあ

宇宙的？

ああ 博士の住んでる所の
土人の言い伝えではあれが
宇宙と関係あるらしい
んだ…
…えーっ…

明日も調べる
らしいから
ツキミ姫も
見に行かないか
よし、行くぞ

うははは
これでウニは食える
オクワ酒屋の
ツケ返せるわ

うー
あれ

どうした
ヒデヨシ
寒み～っ

寒い？

アウウウ
アウウ

あ

あーっ

ヒデコシ
これは
いったい!

あれ

これ花粉だぞ
花粉

・・・!

そうか…ヒデヨシくん
あの植物の花粉の
はこび屋にされたんだ

はこび屋って・・
虫なんかがやる!
そう

たぶんあの花にさわった者が
花粉のはこび屋に
されるんだよ……

それでヒデヨシ君が
花に近づいたとき
あの花から
おかしな気配を
感じたんだ

そうだったのか

これ…銀河の型にそっくりだぜ

ホントだ
あのあたり魚つり座の星々とそっくりに輝いてる

しかしきれいな流れだなあ
テンプラ…

土人は、これを見てあの植物が天体と関係があると思ったんだな

植物の花粉がつくるむらさき色の銀河か…

こうして見ているとたしかにあの花って

宇宙っぽいね

野苺（のいちご）スケッチ

あれっ
そっち行くと
粉雪亭は
遠回りだよ
調べたいことが
あるんだ

調べたいこと?

いっ

痛ってて
どうした
月見姫

たしかに
このあたり
だわ
どうか
したのか?

この辺を通ると
時々頭が痛くなるのよ

きょうこそ
調べてやるんだ

アンブラ君
あぶないから離れててね
おっ
痛っ…
この辺だな
ドドッ
スゴイ娘だなあ
ふぅ
痛みが消えたぞ
あれ

頭痛の原因はこれのせいね…

ウーム
なんだ・これ？

…見当がつかないぞ・
ずいぶん古い時代のもののようですね

しかし・みごとな作りだ
長目水晶に風石をつないで

この鉱石見たことないな…

ビビビッ
うあ

だいじょうぶか
すごい熱量だ
あっ

ヨッヨネザアド文字が浮かんで来ましたよっ
ろっ

なんて？なんて？
なんて書いてあるのーっ

「右手は…水色の中に…」

右手は…水色の中に？

…このナゾ
…この玉…

ツキミ姫これしばらく置いてくれませんか
いいですよ

私、必らず
このナゾを
解き明かします
ホホホ
ワシも協力
しますのだっ

粉雪亭に持っていったのは
少々、まずかったかなあ
どうしてだい？

「右手は水色の中に」で
大切なのは
「水色の中」という所です
そーです
ワシもそう
思います

唐あげ丸さんって
とことん
思いつめるんだよ

水色の中というのは
水色、
すなわち・青空
・あるいは・

水の中じゃ
ないでしょうか

そうです
ワシもそれを
考えておったの
です
右手は水色の中に
…右手を水の中に
つけることじゃ!?

まったく
ワシも同感ですゾ

…これに手を
ふれながら

右手を
チャプン…

ウーム・
何も
起りませんな

するとやっぱり
水色の中は
水の中じゃないんで
しょうか？

たたいて
みましょう

ハ？
刺激を
あたえるのじゃ

ホーレ
ホレホレ
ガン
博士
割れて
しまいますよ
ガン

こういう奴を
甘やかしては
いけません
ぶったたいて
白状させるのです

それなら
火ですよ
火で
あぶりましょう
だめですよ

これじゃナゾを解く前にこわしてしまうっ

翌日のアタゴオル・がらくた通り
実にしぶとい奴なんじゃ
たたいても火であぶっても何んも変らん
えっ火で！

研究に荒ワザはつきものです

ホラ…これだよ
アラこの猫の目時計死んでんじゃないの

もちろん、100年以上昔のもんだからね

お前本気で調べようとしてないな
すんなこたねえですらで…どこにあるんです

死んだ時計なんかクズですゾ
このしぶい色あいなかなかの風格だよ

おやっさん
これ銀貨
9枚だった
よね
オウ
テンプラ君
決心
ついたのかい

メシが
食いたいために
森の学者が
こきつかわれるとは…

重いっ

先にメシを
食わしてくれれば
いいものを…
食ったら
にげるじゃないか

なんと疑い深い少年じゃ
早く綱をとかないと
バチが当るぞ

いっ
ガツ

あっ
時計っ
ギャッ

ガラスは
割れるし…
時計の舌が
切れちゃたじゃ
ないかよ…

んっ？
何んだろう
……銀製のようだが…
舌の中にかくしてある所を見ると
これをかくしたのは、時計を作ったものっ…いな
うっ
親方少し眠らないと
ホントに体がもちませんよ
眠ろうにもなにも頭の中がこの玉でいっぱいなんだよ
あれテンプラ君
テンプラどーしたんだよーっ
ス
テッテンプラくん

サク

わっ
ささった

あれ

オレは
いったい…!?
なんだか
その棒にあやつられて
いたみたいだよ

テンフラくん
これ
どうしたん
ですか?
がらくた通りで
買った猫の目時計の
舌の中に入って
いたんです

どうやら
王の一部のよう
ですな

オッ
この水色の型
わたくし
どっかで見たこと
あるですぞ

あっ
何か浮き出て
きましたよっ

この星、野苺沼じゃないか
そう
ワシも同感です

水色の中にって
その沼の水のことじゃ
ないでしょうかっ
行ってみよう

学者の空腹が
ナゾを解いたのじゃ
しっかり歩かないと
またころぶぞ

いいか

…何んとも
なりませんね…

くそーっなんだこの
玉、棒は動かねえしっ
これっヤケを
おこすなよ
なんか
ちがうな・
ドス

右手は水の中じゃなく…
それ両手で
持つんじゃないかな

両手で？
でも
こうして
持っても…

あれ…
動くぞ
キッ

キーー

うおっ
岩魚
輝いてるっ

これ沼の
岩魚を
あやつる器械だ

そっか
これで岩魚をつかまえて食ってしまうのじゃな

いや
ちょっとこっちを向いていて…

こうして
キ
キ

らっ

わしの顔じゃ

右手は水色の中にってのは
たぶん右手のにぎりであの岩魚を動かすことじゃないか

そうか!
するとその左のは

ホラ…こう そっとあけていくと
岩魚の輝きが大きくなっていくよ

……これは
沼の岩魚の
光跡で
夜空に絵を描く
器械だったのか

イエッ
イエッ
カジキ座の
あたりが
いいな
よし
行きますよ

ツキミ姫座
行け
岩魚!!

これ、作った者は
遠い昔、みんなで
集まって
こんな風に
そてたのかな
どんな絵を
描いたんで
しょうねえ

しかし
こうして
夜空の下に
立つと……

宇宙は…夜がくるたび
新しくめくられる
群青色の
スケッチ帳だな…

ええ ホントに!

…でも
このスケッチ帳…

私たちの喜びや
悲しみを描くには

あまりに大きすぎるねえ

ちょっかいづる

ああ
こんな所
はえてるぞ
遠まわりするか
や～よっ
おまえ、どうせ
最後に腹立てて
しまうんだぞ
ホホホ
オレは心の広い子
なのよ
途中で引き返さないぞ
望むところよ
おいおい
そこの子ども
歩き方がおかしいぞ
コレ、ふとった猫
おまえ、なぜそんなに
ふくらんでるのだ
手のふり方も知らないで
歩いているんだから
ひどい
毛なみ
まったく
原始的な
猫だ
まったく
しようかない奴った

あ〜っ
いちいち
うるさい
草どもだ

アラフ
われわれを
草どもだなんて
まったく
あきれた
認識力だ

こぬやろう！
ぶちのめしてやる
バ
キ
ツ
切ってもすぐ
はえてくるから
ムダだぞ

ムダだとのう
われわれはお前たちの
方がよっぽどムダな
生き物なんだと言いたい
あっ
うるさいの
よっ！
お前、腹立てない
約束だろう

うっテンフっ
腹立たないのかあ
立たないよ
相手は草だぞ

まずいんだよ
おまえの店の酒
こんな店に
客なんかこないと
私は断言する
だまれ
たまらんか
あら
べーっ

そうか、このあたりの
原因はこの店か

おやじさん
大変ですね
ひでえ
植物だな
これは

ちょっかいづるといって
目新しい物をみつけると
はえてきて、何やら
うるさいことを言うのです

二、三日前から切っても切っても
はえてきて まっているんだよ
まあ
つるの方で
そのうちあきて
移動していきますよ

ゴフ子とも わかったふうなことを 言うな。オレが判断 オレが指示する
なに言ってんだ 葉っぱのくせに

文句があったら タコ食ってみろってんだ
タコ食えないような 奴がうだうだ 言うんじゃないよ
論理の組み立てが なっていない
いつ アホ猫だ

アホ猫 ヒデヨン ヒデヨン アホ猫
腹立つなー

粉雪亭
豆が 古いんだよ
まずいよ ここのコーヒー
どうしたんだ ここにもはえてるぞ

いらっしゃい
ようヒデ丸
ちょっかいづるが ずいぶんからんでるな

おととい、店のかんばんを 新しくしたら
きのうあたりから やって来て、うるさいんですよ

今年のは例年になく タチが悪いようだね
来る途中 あっちこっちで ちょっかい出してたよ

ちょっかいではない 忠告しているんだ 小僧ノ
あれ

しぶとい草ですね
こうなったら 森中全部 焼きはらう しかないべよ

焼いてもムリだ
すぐに
はえてくるよ
ところで唐あげ丸さんは
床屋の方かい？
いや

ちょうかいづるの
声をだまらせる服を
買いに行きました

えっ
あれを
だまらせる…

風鈴森の鉱物服屋が
最近作った服なんだそうで
きょうから発売すると
お知らせ板にのっていたのです

フーン
どんな服なんだろう

たまいやーっ

おっ
イエノ
服買ってきた？

ええ
買って来ました

ホラ、
これですよ
はあ？
それが服
ですか？

本日はあと、
4着たけです
ホントに
こんなんで
きくのかなあ

うまく
いかなかったら
服返してもいいっていうくらいだからな
ムフフちょっかいづるの奴
早く出てこないかな
楽しみだわ
おい、何がそんなに
おかしくて笑っているのだ
ここは
おまえたちの
歩くような森
ではないぞ
きたぞ
おかしな腕輪を
しているな
実に似合わない
特にその
ふとった猫は
みっともない
うーっテンプラ
やるぞ
よし
カチッ
おっ
シューーッ
なんだ
そのまぶしいのは
おい
おまえは
なんだ
その姿は
おまえ
なん
シーーン
ホッホッ、
派手なまねはやめるんだ
小僧
何やってんだ

ほんとに
だまってしまったな

あーざいらーあ
れらーっせんまい
らーつゆー

フ、ンフフフ
ちょっかいづるめ
みーんな
たまっちまったわ

なあテンプラ
どうして急に
ちょっかい出さなく
なったんだろ
フーム

たぶん この服が
鏡でできているからだろう
鏡!?

うん
オレたちを見ようと
しても
自分の姿が
映ってしまうから

静かに
なったんだよ

ぼるけいの

ついに追いつめたぞ

陸に上がればこっちのものだ

ええいっ無礼者めっ

……夢か・

くそう　もう
少しだったのにな
アム

むっふふ

昔のオレはよお
こんな時は
魚屋から星イカ
どうやってかっぱらうか
ばっかり考えていたけどさ
DONG

イエッ

あの日以来
オレは盗まずに
星イカ食えるよーに
なったのさあっ
ギッ

今日はイカぱく
明日はカニぱく

あかりか
ガソポリ
たまってるわよう
なにしろ
寒がりが
多いからなあ

(ヒテヨン温泉)
★スミレ博士すいせん
らん
ららん

二日でたった
銅貨六枚っ

これじゃ
星イカか
匹しか
食えないわ

あらら
なんたい
今日は
湯けむりも
少ないしねー

っ
っ
イエソ
おやじっ

おう
ヒテヨン
あのね
今日から
入浴料が
値上げになったのよ

お前ね
何が
値上げだよ

こんなぬるい湯
値上げしたら
だれも
入らなく
なるぞ
ぬるいー
ああ
四・五日前から入るたび
ぬるくなってるぞ
温泉
病気かな
おおかた
鳥霧山のせいだろう
あらっ
テンプラに
パンツ
鳥霧山の
せいって
何だい
あの山 今年の夏から
火口の煙を上げなく
なったんだよ
それはね
山の地下にある溶岩が
冷えて来たからなんだ
それで温泉も
冷えて来たんだよ

ううっ
それじゃ
あと十日もすれば
この温泉
ただの水だよ

ドギッ

イカも食えない
酢ダコも食えない

助けてくれ
パタッ

テンプラーッ
ヒデテン温泉を
助けてくれえっ
こいつ
よくやるよなあ
ビダ
ビダ

タダでいい温泉に
金なんかとるから
バチが当たったんだよ

うう
安くする
安くするから
助けてくれえっ

どんなに熱い温泉でもいつかは冷たくなるんだよ

いつかはいやだっ
いつかはなしにしてくれえ

烏霧山が噴火でもしないかぎりむりだろうなあ
ほんとかっ

あの山噴火すれば温泉助かるのか
お前ね：すればの話だぞ

うはははオレはヒデヨシだぜっ

ノンカ フンカ イカ イカ
フンカフンカ ウニ ウニッ

しょうかないなあ
あいつ本当に鳥霧山を
噴火させられると
思ってるのかよ
本気で
思ってるよ

でもオレひょっとして
まずいことを
教えたかねえ

なんで？
あいつは
あの山吹っとばしても
平気な奴だろう

ああ
お湯の温度のために
森中に熔岩や
火山弾を降りそそ
いでも
平気な奴だよ

でもそんな景色
考えただけでも
恐ろしいな
あの山噴火したら
死者が出るぜ

やるぞ
オレは
やれるのよーっ

オレは
見てしまった猫
なのさっ

アタゴオルのみなさん 私はカサ屋です
雪ドングリだよーっ
吹っとばしてやるぞっ

ランプ草占いはいかがですか?
おーいテマリ

やあ ヒデヨシ
お願い お願いがあるのよっ

鳥霧山を噴火してくれだって!

そうよ そ なの これ
おだちんよ

ザラ ザラ

花実宝石が
こんなに

あの山
噴火させて
くれたら
これのとれる
所に
案内するわよう

う
私は占い師だよ
あの山を噴火できるわけ
ないでしょう

オレは
見たのよ

三年前の秋だったな
鳥霧山にキノコとりに
行った時
たれかさんが
噴火口の端で
青いつえをつっついて
ドロドロの熔岩を

こっちへ
おいで
イエ

とんでもない奴に見られたなっ
ねえねえ あのつえ貸してよね

あのつえは他人に貸すようなものじゃないんだよ
特に君のようなイタズラ猫にはね

パッ
冷たいのねえーっ

ねっ
眠り 花粉

おとなしくわたせばいいものを
しぶとい奴だ

どうもいやな胸さわぎがするなあ
そうかねえ

あれ何
読んでんだい?
海賊古本屋で
見つけた
古代アタゴオルの
博物誌だよ

どれどれ
ねっ
これなんか
おもしろいよ

(コンペイトウ草)
コンペイトウ
草
!?

見かけないと
思ったら
一万年も前の花
なのか
でも もし一万年前に
行けたなら その音を
聞いてみたいと思わないかい?

ああ
聞きたいねえ
「花びらが太古の風に散って
黒い大地にふれた時
それは輝きながら水晶の
キラメキのような音をたてた」という

水晶のキラメキの
ような音か

どんな音
だったんだろう
ふしぎな音を
持ちながら
絶滅した花もあれば
永久に絶滅しそうに
ない猫もいるしなあ

鳥霧山を平気で
噴火させようなんて
思うとこなんか
これから
一万年でも生きのびそうな
感じかするよ

あれ
オーイ
ハンツに
テンプラー

どうしたんだ
ヒンリヤマ
ヒテヨンが
フンフ占いの
女の子に眠り花粉
かけたらしいんだ

おっ
気づいたぞ
あれ
ああっ
カキかないっ

あの
ヒテヨンが
とうかしたん
ですか?

たしか あなたは
あいつのつれの
テンフフくんですね

いっしょに私の家に
来てください
ヒテヨンが
鳥霧山を
噴火させる気
なんです
えっ!?

一方そのころ
テマリ家では
ノンカ
フンカ
イカイカ
フンカ
フンカ
ウニ ウニ

ヒテヨシくん
本当にいいって
言われたんですか

そーなのよ
ヒデ丸
かわいそうな
テマリにたのまれてね
おばあちゃんのために
このつえを使うのよ

でもそのほっかむりは
ドロボウしてる
みたいですよ
心かおちつくのだよ

イエノ

あ
開いたぞ
カチッ

なんだか
迫力ありますねえ

ららっ

そのつえ？
どうかしましたか？

ヒデ丸
気持ちわるいそう
うあ

いったいどうしたんだあ
きっとこのつえさわっているから変に見えるんですよ

ねっ？
あら
ホントだわ

うへへ　こいつ
すごい奴だなあ
あら

この石文字の説明によると
そのつえを使えば大陸の地中の熔岩を思いのままに動かせるとあります

そっそれじゃヒゲ丸
鳥霧山を噴火させて熔岩トロントロ出せるのかな

そのつえが本当に力があるならやれると思いますよ
イエ星イカイエーイ

でも森のみんながめーわくしませんかね?
たいしょうぶよ大噴火しないで小噴火すればいいんだからん

小噴火かそれならいいですね
オイラもこのつえの力を見たいですからね

でも一応そよ風かわら版屋に知らせておきましょうか
そうね山吹っとぶ所はみんなで見た方か楽しいからねえ

ようし
行こう
ヒデ丸
はい

もっ
ハァ

森のみなさま
そよ風かわら版屋が
お知らせします
ハイ!
ん?

森のホラ吹き男
ナゾ野ヒデヨシくんが
おかしなつえを持って
鳥霧山を吹っ飛ばして
みせると大ボラを
吹いています
ホラもここまで
来ればエライ!
みなさん
応援しましょう

ホラじゃないかも
知れないんだぞ

どうやら
カギを開けたよう
だな

そのつえ
本当に山を
噴火できるの
かい

三年前の秋に
鳥霧山が赤い噴煙をあげて森が大さわぎになったでしょう

ああ見たよ あれは気味の悪い色だったなあ

あの時私が噴火口で
そのつえを使ったのよ

えっ

あのつえは
代々占い師をしている我が家に伝わるもので

絶対に使ってはならないとおばあちゃんに言われていたのを
私ためしに使ってみたの

…その時キノコとりに来ていたヒデヨシがかくれて見てたらしいんだ
どうりであいつやけに自信があると思ったよ

だけど早くあのつえを使うのを止めないと
ヒデヨシの体が吹っとんでしまうのよ
えっ

軽い噴煙なら上げることはできても
あの山を噴火させるとなるとヒデヨシの体でももたないわ

それじゃ

山が噴火したらヒデヨシの体も粉々になるわ

かわいそうな話だなあ

とにかくやめさせるんだ
森に火山弾が降ってきたら大変だぞっ

（★4）
ようテンプラ
ヒデヨシが沼のポコロ岩でさわいでたぞ
えっポコロ岩
ドンドン

うーっ
全然集まりませんねえ
ドン
噴火するかなあ
するわけねーべよ
あいつはホノ吹き猫だぜ

ハーイみなさん
私がスミレ博士です

このつえを
作るのに
二年と八カ月
かかりました

とても苦しい
道のりでした
その間
私を
ホラ吹きとよび

私の友達のヒデヨシ君を
ホラ吹きと呼んでいた
森の連中に
大自然のオソロシサを
見せてあげましょう

おーい
ヒデヨシ
ばかなマネは
やめるんだ

そのつえ
使ったら
死ぬぞっ

死ぬ?
そうだ
体が破れて
粉々になるぞ

オレの体が粉々になるだとォ
温泉の湯が冷たくなったらイカもマグロも食えなくなるんだぞう

みなさん！いつの時代にも発明の歴史には
あのようにじゃまをする大衆がいるのです

ヒデ丸くん説明石を読んでくれたまえ
ハイ

まず そのつえをまっすぐに土にさします
イエッ

おっ
見ろヒデ丸
つえをさわってみろ

うあ

大地が透きとおって
熔岩が見えるんだ
次だ ヒデ丸
どうすれば
いいんだ
目的の場所を
頭に考えながら
その方向につえを
ゆっくり傾ける
行くぞ
鳥霧山っ
こら
やめろ
ヒデヨシ
バカモノ 体が
破裂するわよっ
ほほほ
星イカ科学と
ウニ発明学の
ためならば
私は破裂を
するわけ
ないっ
あいつ
わけの解からんことを
言ってるな
鳥霧山に向けて
いざっ
ぐっ

ゴゴゴッ
あ
オッ
熔岩が流れていく
シューッ
ああやめろ
ヒデヨシ死ぬぞ
やったぞ
コノお前っ
ぐっ
ああっ

早く手を
離せ
体が破れるぞ
オオウ
オレは星イカを
食うんだあっ

ゴゴゴ

噴火
するぞ

ふえっ
あっ

バドッ

つえが
逆方向
たおれた

!

蛇腹沼が

なんて体力・・
体を破裂せずに噴火させたわ

あらら
沼が噴火したぞ

大変だ いそいで避難しなけりゃ
ああ
バシャ

あれ

なんだ あの火山弾

フワフワしているぞ

…あ・

これ
一万年前に絶滅したコンペイトウ草じゃないか

ああ、ホントだ
博物誌にのってたやつだ

でも遠い昔に絶滅した花がどうして火山から
私の時は少しですが水色の水晶人形が吹き出しました

え
水色の水晶人形…

あのつえを使うと
使った者の小さい頃の記憶が吹き出して来るのです

花よ花っ
ヒデヨシは小さい頃にコンペイトウ草を見てたのか！

おっテンクフ
花びらが大地にふれるぞ
スーッ

聞きたかったんだ水晶のキラメキのような音……

ゴエッ

ぐっ
気味悪い響きだね

悪種
これはコンペイトウ草の悪種だよ

ゴエッ
ううっしびれる響き

これは火山というより花山ですねっ
よし花吹き山と名づけよう

あら沼の温度が上がってきましたよ
やったっやったぞ温泉だっ

なあテンプラ
ああ

あいつひょっとしたら本当に

一万年前から生きてるんじゃないか
フミカ
フンカ
イサ
イサ

真空旋律

るせえ
ドスド
NPONPO
PON

アタコオルの秋

はいっ
コロコロ
チャプッ
しまったっ マグラノ粉が 多すぎた
シュ ー ッ
種は？

ふっ
やったぞ
それにしても
ひさしぶりの手こわい仕事だったな
まったくです
くちびるかちょっとヒリヒリするな
こんな奇妙な設計図をよく作ったものだよ
ああ「製作中はずっと右のメロディを吹き続けよ」だもんな
たぶん種にメロディを記憶させるんだろうけど
やっぱりこの設計図のワザは

トッコラ草の種に
ヘエァ鉱石を
混ぜて新しい種を
作るというところ
なんだ

ホオヅロ先生
この種の
注文主はいったい
どなたなんですか

完成したから
話せるんだけど
実はね
ラジラ9世
なんだよ

えっー
ラジラ9世って
あの
天体陶芸士の

ラジラ9世といえば
こんとつぼの展覧会
開かれるんだろう
ああ
オレ見に
行くんだ

烏霧山から
下界に降りたことの
ないラジラ9世が
注文したあの種
いったいどんな
花が咲くのかなあ

そうだね
つぼも見たいけど
種の方も見たい
もんだね

5日後の夜

先生
芽が出て
来ましたよ
ウム
大切にそたてて
くれたまえ

展覧会も
成功のようだし
もう二日もすれば
ぐんと大きくなる
じゃろう

数日後

ちょっと
うかかいますか
なんて
しょう

この森て一番の
ハーモニカ吹きは
となたでしょうか

やっぱり
テンプラたろうな
テンプラ
氏
と

それから
ボンゴたたきで
一番乗りのいいのは
飛びぬけて
うまいのが
ヒデヨンって
奴たよ

ヒデヨン
氏
と
ても
君

あれは
この森一番の
お荷物猫たぞっ

秋よーっ
秋なのよー
ポン

おそいぞ
テンプラッ
おーう

ちょっと買い物か
あったんだ
あら
そうなの

オレ
きのうから
ずっとここで
待ってたのよ
入場料は
オレか出すよ

うう
好きよ
テンノフくん

あらん
けっこう来てるなあ
フジフ9世の
作品展だから
ねえ

つぼや皿見て
何がおもし
ろいのかねえ
まあ
入って
みなって

おっ
ね

すごいや

ほっほっ
星が動いてるぞ

銀河だ
うわ まぶしい
青ガメ座のコラ31
テンプラ 何んだ これは?
ひょうたん座のカプポラ
そうかあ うっ うう
あれ どうしたんだ その汗?
うっ うまそうな ニオイ
くーっ もう たまらないわ
あっ
くあっ

ペラ
ペラ
ペラ

お客さん
こまります

割れたら
どうするんですか
あんまり
いいニオイ
だったもんで

このつぼは
大変に高価な
ものなんですよ
イエッ

さっばじゃ

おいっ
ヒデヨシッ
なんて
奴たっ

やっぱり
あいつには
つぼの魅力は
ムリだったなあ

なにやら
にぎやかと思えば
天体少年ではないか
あれ天文台の
所長さん

実にみごとな
作品だねえ
星々が正しい
位置にある

ホントに……
どうやって焼き上げ
たんでしょうね……

知らなかったわ
知らな
かったのよーっ

まるで宇宙を
カマにほうりこんで
焼き上げたみたいだ

イエーノ
おやしいっ
おう
ヒテヲシ

なんだまた
魚屋に追わ
れてんのか

つぼ見せてっ
オレにつぼ
見せてっ

ほほっ
どういう風の
吹き回しだ?
目ざめたのよ
つぼの味に
目ざめたのよ

つぼの味だと
こいつ生意気な
ことを

まあいい
一つぐらいなら
持っていっても
いいぞ
わおっ
ありがとさん

では
さっそく

あらん

あらら
つら
ペロ
ペロ
ペロ
ペロ

おまえ
何やってんだ
うーっ
このつぼ
味ないぞ

あんた
腕が
悪いんじゃ
ないのっ

なにをっ
つぼに
味がないのは
あたりまえだぞ

だって
展覧会のつぼ
いい味してたぞ
展覧会って
ラジラ氏の
つぼか？

そう
それよ
それっ
あの方のつぼは
なにやら秘密の土を
使っているのだ
PONG

秘密の土

ああ
あのつぼの、オイも
ふしぎな輝きも
フーム

その日の夜

私も見ていただけで
毛が逆立ちました

あんなみごとなつぼは
青猫島でも見たこと
ありませんよ

ハァ
ハァ
親方っ
ナンクノ君
手紙です
手紙
はいっ
おふたりに
フジラ9世からの
手紙です
ノンフ
9世から
アタゴオルの森随一の
ハイオリン弾き　唐あげ丸さま
ぜひその腕を
お聞かせ下さい
今夜一時我か家の
戸をたたいて下さい
オレにも
ハーモニカ吹いてくれと
書いてあるよ
イエーッ
字か来たわっ
読んで
くれえ

ヒデヨシにも
来たのかい
来たのよう
家の戸に
はさんで
あったのよう

えーっ森のボンゴたたきの
名手ヒデヨシさま
あら
なあに?

ぜひあなたの腕を
見せて下さい
いーわよっ

今夜一時我が家の
戸をたたいて下さい
なんだ
戸を
たたくのか

いい音のボンゴ
持って来てねっ
イエッ
ポ

バイオリン
ハーモニカに
ボンゴか
月夜の
音楽会
ですなあ

そういえば
十日前に作った
あの種
どうなったろう

いさ行こう
森の名手よ

らんらん

トントン

先生
おみえになりました

いやあ
よくおいで
くださった

私カラノフ9世
です
テンプラです
唐あげ丸です
ホンゴの名手
です

あれ
この装置は

これかあのすばらしいつぼを作る装置ですか
いや種をつくるものです

そうです初代のラジラ一世は植物学にもすぐれていて
この装置を作り種を作ったのです

種っー

一世といいますとずい分昔のことですね
ええ二百年近く前なんですが以来この装置は動かしていなかったのです

ところが二ヵ月前私はどうしてもこの装置を動かさねばならなくなり

色々とやってはみたのですがごらんの通り古びていてもう使えません

そこでラジラ一世が書いたこの装置の設計図を植物研究所にわたして
種を作ってもらったのです

その種どこにあるの?

十日前庭にうえました
庭っ

ええホラ あれですよ
もうすぐ実かなります

ああ

たしかにペエラ鉱石の色をしている

おやっ どうしてそれを
実は研究所であの種を作った時ハーモニカを吹いたのはオレなんです

そうですかっ それなら私も少し安心ですね

百年以上
一度もたやさなかった
このカマの火を止めてから
二ヵ月になります

私はつぼを
焼きたかった
どんなに
焼きたかったことか

だが
船をなくした
水夫のように
つぼを焼くにも
土がないっ

この苦しみ
わかっていただける
でしょうか?
ええっ

先生
実をつけ
ました
おっ

モコ
モコ

これは…
ズーーッ

バイオリンた

うっ
まさか
これを私に弾けと

そうてす
すばらしい
実に
すばらしい

ては
おふたりに
譜面てす

これは
種を作る時に
吹いたメロディた

実に不思議な
旋律てすね

実に。。。
さあ いいですか
あれ フジッさん このバイオリン 弦かありませんよ
たいじょうふ あなたなら弾けますよォ
そっ そんなことをいわれましても
では テンプラくん 始めて下さい
はい

何度吹いても
不思議なメロディだなあ

先生いよいよですね
うむ

でも本当にうまくいくのでしょうか?

彼らの腕とあの種を信じるしかない
失敗すれば代々続いた陶芸も終わってしまう

フーン

テンプフ君なかなかみごとな・

!

シューーッ
シューーッ
おおっ
シューッ
らあ
ハ　モニカの
音色がみちびいて

さあ唐あげ丸さん
ヒテヨシくん演奏を
はい
星に弦を張るのか

オーン
イエ
ポン
ポン
オーン
こんな
みごとな旋律
オーン
生き物が作った
とは　思えない
ぐっ

わお
ドド
あ
ドド
エビだ
光るエビだっ
星のエビー
やったぞ
どんどん
かかって来る
わーい
これよ
あのつぼは
このニオイ
たったのよう
えっ
まさか
このエビを
陶芸に
？

ええ
代々うちの作品はこの銀河エビを材料の土にしていたのです

くーっ
どうりで
イイにおいが
するわけだっ

あらん
エビ降って
来なくなったわね

ヒデヨシくんの
ボンゴの音が
止まったから
てすよ
らっ？

バイオリンの音色で
銀河エビをおびきよせ
ボンゴのリズムで
つるのです

なんとっ
すおう
だったのくあっ

連打
ポン
ポン
ポン
ポン

……それにしても
なんて不思議な
メロディなんだ
あらゆる旋律の
根源を流れて
いるようだ……
…そうか…
これ…
銀河の星たちの…
軌道が作る

音階だ

初出

P.13～80／月刊MOE（偕成社刊）'86年1月号～'86年8月号
P.81～143／DUO（朝日ソノラマ刊）'85年1月号、'84年11月号
P.1、8／王様手帖（アド・サークル刊）
P.2、6／INFAS（流行通信社刊）'84年
P.4／小学生低学年新聞バルーン（リコー教育機器）
P.5／月刊プレイボーイ（集英社刊）

ビートルズ曲あてクイズ

★1／Mr. Moonlight(P.42)
★2／She Loves You(P.51)
★3／P.S. I Love You(P.79)
★4／SGT. Pepper's Lonely Hearts Club Band(P.99)

アタゴオル玉手箱——2

発行　一九八六年十一月　第一刷
作者　ますむら　ひろし
発行者　今村　廣
発行所　偕成社
〒162東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3-5
電話（〇三）二六〇-三二二九（編集）
（〇三）二六〇-三二二一（営業）
印刷　大日本印刷㈱
製本　文勇堂製本

144p. ISBN4-03-014050-3 C0093

Published by KAISEI-SHA, Printed in Japan.
定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。